

イメージキャラクター
「べえず」

みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146(代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

ファインダーの向こう

我が国には、幸いにして1年の始まりの機会が二回あります。お正月と四月です。お正月だと思っていたらもう3ヶ月も経ってしまい、時の過ぎる早さに焦ってしまいます。一方で、この四月から平成20年度ということで、新たな気持ちで新年度を始めることが出来るのは、ありがたいことです。

春と言えばなんと言っても桜です。清水港の周辺にもたくさんの桜の名所があって賑わっています。当事務所の庭の桜もこの写真のように美しく咲いています。冬が過ぎて急に蕾がふくらみ、一斉に咲き始めるところは自然の力を感じます。

日本の桜の代表とも言えるソメイヨシノは、一本の株から殖やされたクローンだそうです。木の性質が同じだからこそ桜前線が描けるのかもしれませんが、樹木としての寿命が60年ほどと長くないこと、病害虫に弱いなどの弱点もあるそうです。そのため、近頃ではソメイヨシノだけでなくいろいろな種類の桜を混ぜて植えたり、以前はタブーと考えられていた剪定をしたり、木の根元が踏み固められるのを防ぐために花を植えたりなどいろいろな試みがされているようです。

今年度は、いよいよ清水港新興津地区コンテナターミナルにおいて第二バースが着工されます。港の発展に必要なことは岸壁を作ること、つまり、桜の木を植えることだけでは不十分で、背後圏と港とを結ぶ交通アクセスの整備(根や枝が育つ環境作り)や、物流施設の整備(肥料)、みなとの再開発(剪定)、環境対策(消毒)などいろいろな「手入れ」を総合的に進めることが大切ではないかと思います。厳しい社会・経済環境のなかで全国一律のクローンのような取り組みではなくて、清水港独自の取り組みは何かを考えていきたいと思っています。



「さくら」

Photo : A. Fujii

平成20年度 清水港湾事務所管内事業の概要

清水港湾事務所が整備する4港における事業費は、合計で約74.7億円（前年度比1.24倍）です。

港名	事業費(百万円)	整備目的
清水港	3,516	新興津国際海上コンテナターミナル(-15m)第2バース関連施設整備 等
御前崎港	700	港内静穏度確保のための防波堤整備
田子の浦港	2,340	多目的国際ターミナル(-12m)関連施設整備
下田港	910	船舶の避泊面積拡大及び津波防護のための防波堤整備
合計	7,466	

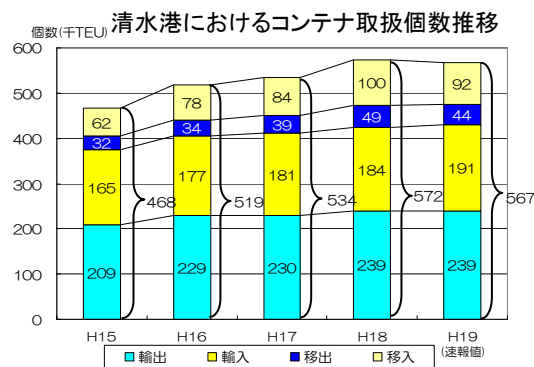
清水港

清水港におけるコンテナ貨物取扱個数は過去10年間で約1.8倍となっていると共に、静岡県における活発な経済活動から今後更に取扱量増加も見込まれるため、平成15年7月より供用中の新興津地区コンテナターミナル第1バース（以下第1バース）に引続き、今年度から、新興津地区コンテナターミナル第2バース（以下第2バースと記載）の整備（岸壁(-15m)（耐震）、新興津泊地、新興津防波堤）を開始します。

なお、第2バースは東海地震を考慮し、第1バース同様地震に強い岸壁（耐震強化岸壁）として整備します。また、日の出地区では、老朽化した栈橋の基礎杭及び上部の改良を行い、公共埠頭施設の延命化を図ります。

<コンテナ取扱個数の推移>

H19 海上コンテナ取扱個数 約567千TEU(速報値:外内貿込)(対前年比0.99)



出典:清水港統計年報



御前崎港

御前崎港背後地域では、平成21年3月開港予定の富士山静岡空港の整備をはじめ、第二名高速道路や金谷御前崎連絡道路などのプロジェクトが進んでいると共に、地域経済が活発化しており、取扱貨物量も増加中です。

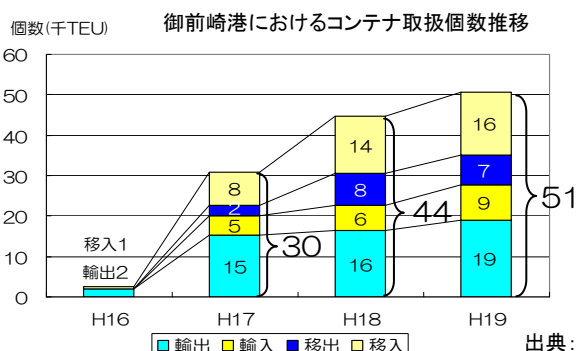
平成16年1月より供用中の女岩地区多目的国際ターミナル（水深14m岸壁）第1バースにおいても、コンテナ貨物の取扱個数は着実に伸びています(H19年には5万TEUを突破)。

今後は、自動車関連貨物を中心として、更に取扱貨物量増加が想定されることから、利用性や安全性の確保に向けて、女岩地区において防波堤の整備を進めています。

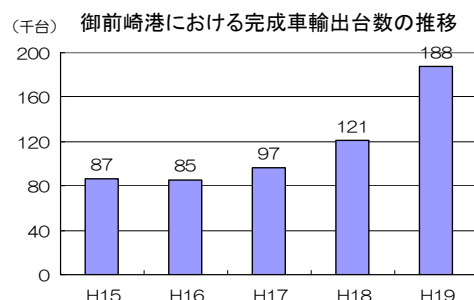
<海上コンテナ取扱個数及び完成自動車輸出台数の推移>

H19 海上コンテナ取扱個数 約51千TEU(外内貿込)(対前年比1.13)

H19 完成自動車輸出台数 約188千台(対前年比1.55)



出典:御前崎港統計年報



田子の浦港

田子の浦港は、駿河湾の最奥部に位置し、富士山麓の南を流れる沼川と潤井川の合流点に建設された掘込式港湾であり、地域経済の成長とともに工業港として発展してきました。現在は、県東部地域における、原材料及びエネルギー供給拠点として重要な役割を果たしています。

中でも中央地区は、当港の取扱貨物量の37%を扱う田子の浦港の中心的な岸壁ですが、建設後40年以上経過し老朽化が進んでいるとともに、船舶の大型化に伴い入港時の喫水調整が頻繁に行われている事への対応も必要となっており、多目的国際ターミナルとして中央地区岸壁（水深12m）（耐震強化）及び航路泊地（水深12m）の整備を進めています。なお、同岸壁は東海地震の際にも利用可能な耐震強化岸壁として整備されます。

＜中央ふ頭地区の利用状況＞

大型船がひしめき合う田子の浦港（中央地区工事着工前の様子）

写真：田子の浦港管理事務所提供

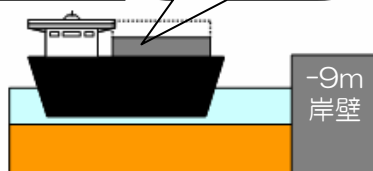


※喫水調整のイメージ



整備前

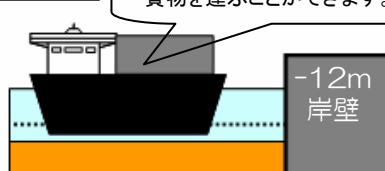
満載にできない



積荷を下ろして喫水調整し、船底が海底にぶつからない状態に保つ

整備後

満載が可能となり、1回でより多くの貨物を運ぶことができます。



水深が確保されると、船底が海底にぶつかる心配が無くなり、満載に出来る

下田港

伊豆半島先端に位置する下田港周辺は、複雑な地形と厳しい海象条件から海難事故が多発する海域のため、古くから海の避難場所として伊豆半島を通過する船や近隣の漁船に利用されています。

防波堤の整備は、避難港として避難船舶を守るためだけではなく、近い将来予想される大規模地震に対して背後の住民、財産を津波から守る津波低減効果が期待されます。



荒天時の避泊船舶の状況(H17.2.19)



安政地震(1854年)による津波被害の様子

うわあ！



//

第2回 清水港勉強会(清水港視察会)の開催

清水港においては、第二東名高速道路や中部横断自動車道などの交通網整備が進んでおり、完成すれば、静岡と甲信地域のアクセスは格段に向上します。

今後のインフラ整備により関係が深くなるとされる山梨県の方々と共に、清水港を通じた内陸部の国際的な物流に関する清水港勉強会を開催しています。

平成20年3月19日(水)には、第二東名吉原JCT、新興津コンテナターミナル、清水港FAZの現場視察、船上からの港内視察を行いました。

当日は、山梨県をはじめとする中部横断自動車道沿線自治体の方々、民間企業の方々など、総勢20名以上の方々にお越しいただきました。



清水港FAZ2号棟視察の様子

港うお(魚)ツチャー

カマス編

(釣りバカリチャー:監修)



いきなりですが、魚ネタでちょっとカマしちゃいますよ。



年度が改まった区切りのこの回でカマしてしまうんですかぁ、どーぞ。



心理学では有名な「カマスの実験」っていうのがあって、



えっ？ダジャレですか？



まあ、そう言わずにカマさせて下さいよ。

ガラス版で仕切った水槽の一方にカマスをいれて、もう一方にエサとな

る小魚を入れるんです。するとカマスは小魚を捕食しようと突っ込みま

すがガラス版に阻まれちゃうわけ。ダメだと思いこんじゃったカマスは仕切りを取っても小魚を食べようとせず、このまま放っておくと天国へ召されてしまうらしいのよ。



衝撃ですねそれは、何か興味深いです。



この事態を打破する方法があってね、それは事情をしらない新しいカマスを水槽に入れるんですよ。このカマスが小魚を食べるのを見て、既存のカマス達が追いかけて始めるようになるんですって。



ほお～、なるほどねえ。



4月でしょ、係長のところにも新しい人が仲間入りしたんじゃないですか？



そうだよ、新しい発見があるかもね～。それより自分がニューカマスの役割になって前例や慣習にとらわれない仕事をしてカマス越えを目指すべきなんでしょうねえ。



カマしますね係長、いいこと言った。けど越える相手がカマスかぁ。



写真のカマスは約37cmと結構大きい！サンマくらいあるね！

清水港のマスコットって知っていますか？



清水港の紹介パンフレットから、かわいいマスコットが誕生しました！

594点もの応募の中から、“みなさんに「清水港」をイメージさせ、「親しみやすさ」を感じてもらえるように。”と、「しみずきんちゃん」が選ばれました。

これからも、ホームページやイベントなど、いろいろな場面で活躍していきますので、みなさん、どうぞよろしくお願いします。



しみずきんちゃん



パンフレット『清水港ってどんどこ？』では、港のあれこれを紹介しています。



海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに

よくなれ

みなと

0120-497-370

受付時間: 9時～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)



- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本誌に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

太田・屋敷

TEL 054-352-4148

e-mail shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

